

4. 初期公庫住宅小泉家住宅の保存と活用

昭和のくらし博物館
(東京都大田区)

I. 活動の背景と目的

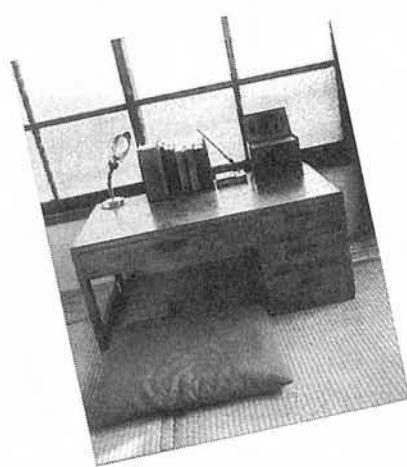
本活動は、昭和26年（1951）築の初期公庫住宅・小泉家住宅を、地域の文化資産として適切に保存し、庶民のくらしの知恵や技術を伝える地域コミュニティの拠点として活用する基礎づくりを企図した取り組みである。

現在「昭和のくらし博物館」として一般公開する東京都大田区南久が原の小泉家住宅は、都庁に勤務したサラリーマン、小泉孝が、住宅金融公庫第1回目の融資制度を利用して建てた戦後の庶民住宅である。世帯主だった建築技師・小泉孝が自ら設計し、直営で施工し、一家6人が45年間居住したあと、孝の長女で、家具・道具史研究が専門の小泉和子（工学博士、生活史研究所主宰、文化庁文化財保護審議委員）が私費を投じて保存を企図し、平成11（1999）年2月から博物館としての活動を開始した。

昭和期、特に戦後の庶民住宅研究は、ほとんど未着手の研究領域である。にもかかわらず、戦後すぐに建てられた昭和期の庶民住宅は、既に取り壊されてしまったものが多い。1998年8月15日付『毎日新聞』掲載の東京大学松村秀一助教授の報告によると、1993年度の国内全住宅戸数4,594万戸のうち、昭和20年（1945）から昭和25年（1950）の間に建てられた住宅は2.0%、昭和26年（1951）から昭和35年（1960）に建てられた住宅は5.8%に過ぎないという。小泉家住宅は昭和26年の竣工（完



小泉家住宅
(ポストカードより)



小泉家住宅の展示品
(ポストカードより)

成)であるが、昭和25年創設の住宅金融公庫最初の融資条件枠(延べ面積9坪~18坪。昭和26年度から上限が20坪となる)で設計されている。そのため松村報告による「昭和20年(1945)から昭和25年(1950)の間に建てられた住宅」という2.0%グループにも小泉家住宅は属する。特に注目されるのは、建物そのものの保存状態が良好であることと、増改築を含めた建築資料が一括して現存する点である。建築当初からの資料が伝来する事例はたいへん貴重であり、その成果は来館者案内はもちろん、1992年に実施した復元修復工事や、2000年度に実施した建物調査と報告書の作成(平成11年度公益信託大成建設自然・歴史環境基金助成事業)にも活用している。築50年目を迎える2001年春現在、国(文化庁)の登録文化財へ申請中である。

いまや昭和戦後期の住宅や生活を記憶している世代は、60歳代以上の高齢者になりつつある。住まいや日常の暮らしづくりの聞き取り調査が可能なぎりぎりの世代である。加えて、高度経済成長期による生活様式の激変は、高度経済成長期以前の住宅や暮らしの道具を身の回りから消失させた。その結果、同時代を体験した多くの人たちも、どんどん記憶を無くしはじめている。その意味からも、昭和戦後期の住宅を現地にそのまま残し、実際に使われてきた生活道具一括と建物をセットで保存し、昭和20年代後半から30年代はじめの一般家庭のくらしづくりを伝承するための地域の拠点として、小泉家住宅を「昭和のくらし博物館」として活用し保存するための取り組みがはじまった。

II. 活動の内容

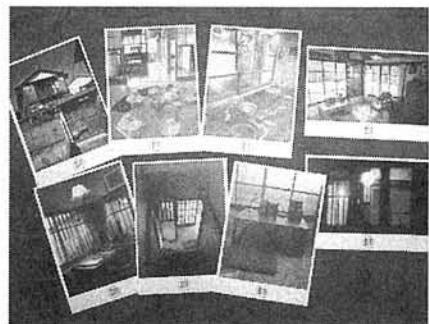
南久が原地区居住歴40余年の住民が開始した取り組みであっても、小泉家住宅の保存と活用を企図する「昭和のくらし博物館」活動について、いかに周辺地域住民に広め、理解と支援や協力を得られ関係を広げていくかは大きな課題である。それにはまず、博物館の存在そのものを認知してもらうための広報努力と、通常の館内公開活動とは別に、老若男女を問わず、地域住民が気軽に参加できる博物館行事を開催し、公共性をもつ活動の趣旨を十分に理解してもらうことが最初のステップとなる。今回は以下の内容について活動を実施した。

(1) 広報用印刷物等の作成

広報用印刷物等の作成については、①ポストカードの作成、②ホームページの開設に関する作業を行なった。

①ポストカードの作成

博物館のPR用としての効果が見込めるほか、来館者自身や第三者への土産用としても利用できるため、ポストカードの作成を行なった。制作は博物館友の会会員の協力を得、撮影は大西暢夫カメラマンに依頼した。春・夏・秋の各季節ごとに、建物の外観、建物内部の展示や室内の撮影を4回実施し、最終候補の中から8カットを選び、4枚1組2種類のポストカードセッ



作成したポストカード

トを作成した。

②ホームページの開設

博物館の広報用としてホームページの開設を行なった。博物館友の会会員の協力を得て、まずサーバを無料で確保したあと、ホームページの基本デザインを作成し、5月下旬から試験版として開設・運用をはじめた。開設後、2001年3月までに計8回、内容の更新を行なった（URL = <http://www.digitalium.co.jp/showa/>）。



開設したホームページのTOP

（2）常設展示等の改善

常設展示等の改善については、季節展示の常設展「くらしの着物コーナー」の改善と取り組み、今年度は季節に応じた着物の装い方について復元展示を実施した。2001年3月までの展示替は、以下のとおり7回である。

春のきもの	2000年4月4日～5月14日
初夏のきもの	2000年5月16日～6月30日
盛夏のきもの	2000年7月4日～9月3日
初秋のきもの	2000年9月8日～10月8日
晩秋のきもの	2000年10月10日～11月30日
冬のきもの	2000年12月1日～2001年2月4日
子供のきもの	2001年2月6日～4月1日

実施にあたり、キャプションやパネル解説の内容について、図解を用いるなどの改善を行なった。また展示解説ボランティアを含む職員を対象に、和装文化専門の担当者（京都在住）による各季節の装い方に関する館内研究会を行い、正確な知識の修得による館内ガイドの水準アップをめざした（6月26日・10月30日実施）。

（3）子供むけ企画の点検

子供むけ企画の点検と拡充については、展示解説ボランティアや友の会会員を含めた職員ミーティングを7回実施し、ワークシートの活用方法について、単身来館児童と家族同伴児童との対応事例の相違点、校外学習におけるグループ対応や体験学習提供のあり方等を素材に、効果的な学びの提供について検討を重ねた。また新たに追加するワークシートについても、内容と素材に関する協議を適宜実施した。



常設展の改善

子どものきもの展で、新たに図解を入れた

以上のほか、他館で行なう昭和期のくらしに関する展示を視察し、提供している子供むけパンフレットなどの情報や資料を収集した。

（4）地元支援者とのネットワークづくり

昭和のくらし博物館で行なう友の会活動や、展示解説員等のボランティア活動へ参加する地域住民と協力しながら、小泉家住宅の保存と活用を、商店街や地域の活性化と関連づけて、相互に活用するための基盤整備が不可欠である。それにはまず博物館を知ってもらうこと、そして博物館側も周辺の地域を知る

ことが必要であった。まず年度前半は、博物館を知ってもらうための機会を設定した。具体的には、7月と10月の博物館友の会行事を通しての対地域住民PRを実施した。さらに年度後半は、地域情報の収集と発信を兼ねた地図づくりを通して、商店街や地域で活躍する住民と交流し、2001年度以降の望ましい協力関係をさぐる準備に取り組んだ。

①友の会行事の実施

友の会会員を対象に配布する友の会会報「友の会だより」を地域の商店街や周辺住民にも配布し、行事への参加呼びかけと実施行事のPRを行なった。

②「昭和のくらし博物館ご近所お散歩地図」(以下「散歩地図」)の作成

博物館の活動や考え方に対する賛同してもらえる新たな拠点や人材を発掘し、息の長い協力関係を築きあうための作業として「散歩地図」の作成を行なった。2000年10月下旬以降、友の会会員と博物館職員がいくつかのテーマを決めて分担し、現地調査や取材をのべ100回程度実施した。作業は就業後や休日を利用するため、版下作成までにはかなり時間を費やしたが、史跡や飲食店をはじめ、小泉家とゆかりのある商店や地域情報を盛り込みつつ、正確な情報提供と見やすさへの配慮など様々な工夫をした。また掲載や紹介先に迷惑がかからないようにすべての対象者から承諾を得るなど、可能な限りの配慮に努めた。地図はA3判2色刷(両面使用)で3月末に稿了した。

III. 活動の効果と今後の課題

(1) 広報用印刷物等の作成

ポストカードは好評で、毎月平均10セットのペースで出ている(4枚1組で400円)。来館者の土産物のほか、建物の建築資料として購入したり、知人へのPR用に数セットまとめ買いをする事例もある。これらのPR効果が今後徐々にあらわれると思われる。

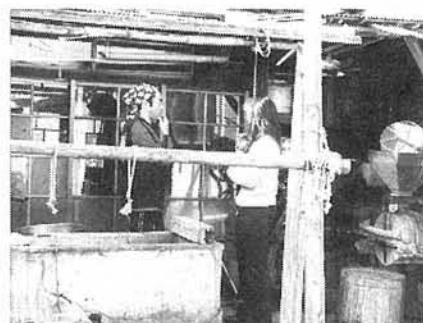
またホームページの開設により、博物館関係の情報を集積するポータルサイトへの登録が実現したり、企業や個人サイトへのリンクや紹介、検索エンジンへの登録が着々と増えている。Webならではのメリットとしては、遠方の千葉県関宿城博物館とのリンク集を通じた交流の実現が挙げられよう。また紙媒体である区発行の広報紙の場合は、民間任意団体は年間掲載回数が厳しく制限されてしまうが、大田区公式ホームページに「区内の関連施設」として取り上げてもらったため、今後はリンク機能を活かした最新情報提供が実現することになった点は大きい。来館者との対話から、ホームページを見ての来館者は着実に増えている。また単純な問合わせ電話の減少にも貢献していると思われる。今後の課題は、更新のしやすさを重視したコンテンツやデザインから、利用者の見やすさを配慮するものへの



友の会イベント
地域の住民と友の会のメンバーがたくさん集まつた中庭



中庭の脇の受付棟も人でいっぱい
近所の子どもも来てくれました



地図作成活動
千鳥町の染物屋さんを取材する友の会のメンバー

改善がある。たとえば開設当初からしばらくの間は、どれが新着情報であるか区別がしにくかったので、暫定措置として2001年3月から各ページの冒頭に目次を新設し、新着情報とそれ以外の情報とが一覧できるように改善した。そのほか博物館友の会行事報告なども徐々に増やしていくなど、従来の媒体ではみられないようなホームページの積極的な活用が課題となっている。これについては2001年度に順次取り組む予定である。

(2) 常設展示等の改善

展示の改善にともなう作業を通して、当館の組み合わせ展示は、他館ではあまり見られない手法であることが確かめられた。実際の着用ルールや当時の常識等、小物の知識などが展示担当者になければ組み合わせ展示は無理なため、通常は美術品展示のように、着物を広げて前後身ごろの模様を鑑賞してもらう展示スタイルを取ることになるという。2回の館内研究会後は、特色ある展示方法に触れながらの解説も実現するようになり、展示品とあわせて、当館の特徴を来館者に対し有効に伝えることができるようになった。今後の課題は、着物を普段着として着用してきた世代から、洋服世代が知らないまま失われようとしている知識や約束事を、書き書き等により記録化し、当館の今後の展示や活動に活かしていく体制づくりである。

(3) 子供むけ企画の点検

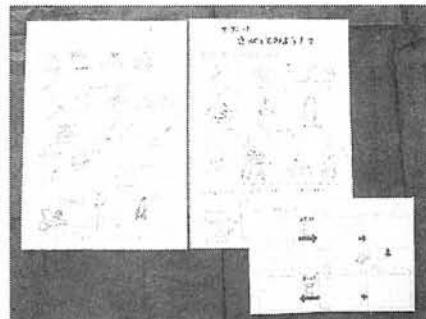
2種類のワークシートと2000年3月から導入したスタンプカードは、小学校3年生を中心に好評を得ている。今後の課題は、当館のアドバイザリーグループとなるような教員や生徒、あるいは学校との連携を実現し、特に小学生に有効な企画を整備することである。また校外学習についても、現在は博物館側に100%依存、学校側では前後のフォローやサポートが全くみられないケースがほとんどである。そのため集団来館後、興味をもった児童数名が、自発的にグループで毎日のように来館しても、それぞれにあった適切な対応がとれず、せっかくの学びのチャンスを有効に生かせないこともある。2002年度からスタートする学習指導要領の改訂にむけて、地域学習拠点としての博物館の役割がますます重要視されること前提に、当館のコンセプトをきちんと反映させた独自のプログラムの開発が今後の課題となっている。

(4) 地元支援者とのネットワークづくり

友の会行事の実施で、7月・10月とも、それぞれ地域住民10～20名程度の参加を得た。特に集合住宅住まいの親子づれに好評で、参加者には、未就学児からシニア世代の交流が実現する地域の拠点として親近感をもってもらったことは大きな成果である。また行事への参加が縁で、地元の「みんなでつくろうひろばの会」発行の公園情報誌に「昭和のくらし博物館」連載コーナーが実現し、催事情報を定期的に掲載できるようになった。今後は、地域住民が気軽に参加できる行事を毎年継続しつつ、



地図の打ち合わせ



ワークシートとスタンプカード

内容を適切に更新していくことが課題である。

一方、「散歩地図」作成を通して得た収穫は、多様な地域情報の発掘と、未知の地域住民との接点を大量に獲得できたことに尽きる。旧小泉家の私的地域財産を、公共性をもつ“博物館活動のネット”として友の会や職員が継承し、館行事との協力関係を模索する基盤が整えられたことをはじめ、今後博物館の行事と連携する企画や、協力しあえる支援者候補も発掘できた。すでに博物館を利用した展示企画の提案など、地域住民からの反応が着々と出てきている。また「散歩地図」では割愛せざるをえなかった地域情報についても、今後何らかの形で集約し、地域に還元できるような新企画を実施したり、地域の住民や高齢者からの聞き取りも今後実施したい課題として検討している。また「散歩地図」は、すでに作成時の段階から、館周辺で散策や飲食を望む来館者に有用な資料として期待されているほか、大田区役所地域振興課職員や南久が原地区担当の区議会議員、大田区ケーブルTVやミニコミ紙記者からも注目されている。周辺町内会長や関係諸団体へPRするための効果的な資料となることをはじめ、今後様々な活用されることが見込まれている。



行事や活動をPRする友の会会報

昭和のくらし博物館のご案内

【TEL&FAX】 03-3750-1808

【所在地】 〒146-0084 大田区南久が原 2-26-19

【開館】 10:00 ~ 17:00

【休館】 月曜日・9月中旬・年末年始

【交通】 東急池上線久が原または

多摩川線下丸子下車徒歩8分

【入館料】 大人 500円、高校生以下 300円

showalhm@01.246.ne.jp

<http://www.digitalium.co.jp/showa/>